

大山雲峯

おほのぐも

新聞記者。明治十四年一月二十四日岡山縣津山生れ、

昭和九年二月十一日歿（一八八一—一九三三）。本名覺威、幼名該三。別號絳

雲、血采山人。明治二十五年高山家に入り、大正九年生家へ復歸する

まゝ高山姓であつたため、後年高山覺威の名で語られることが多い。

明治二十四年大阪日報社へ入社。三十七年反省社へ轉じて、翌年『中

央八論』編輯主任となり文藝欄を設置、その後の該誌發展の素地を作

つた。爾來國民新聞社、京城日報社、東京朝日新聞社等を経て、昭和

八年大阪時事新報社入社、一貫して操觚に従事した。

『雲峯遺文』（昭和十年二月大山斐堯鷹跋、無刊記）には、徳富蘇峰、

幸田露伴、杉村楚人冠等が序を寄せた。

